明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　毎月一回一日發行　價八錢

家庭雜誌

第五卷
第七號

明治四十五年一月一日發行

Dai 5 Kan.　KATEI ZASSHI　Dai 7 Gō.

十分の春色……堺　利彦……一
婦人問題雜俎……堺　利彦……二
芝公園の逍遙……上司　小劍……五
非墳墓論……若宮卯之助……六
謂はゆる人畜生……深尾　韶……九
ジャガ芋料理……山田　嘉吉……一三
米國婦人運動小史……大杉　榮……一四
女學校の倫理に就いて……中尾清太郎……一七
春雨の街……德永　狂風……二一
羅馬の家庭……しらぬ火……二三
孤獨……木……二四
女學校評論（六）御茶之水高等女學校……目黑　里人……二六
ローマ字欄……深尾　韶……三三

家庭雜誌社
東京府下新宿淀橋町柏木三百四十二番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

石鹸と洗粉は何れが好きか

◉壹圓の舶來石鹸よりもクラブ洗粉は衛生美身術に適合す

◉幾百種の洗粉の中にてクラブ洗粉のみは石鹸以上の特點あり

◉クラブ洗粉は御婦人方は勿論紳士方の愛用もまた盛なり

◉クラブ洗粉は各地の信用ある呉服店及び小間物店化粧品店にて販賣せられつゝあり

神戸市花隈町間ノ踏切上ル本店

大阪東區北久太郎町四丁目御堂筋角支店

中山太陽堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

有樂社發行家庭實用書（大附錄ビックリパック）

月刊食道樂編輯兼編纂
主婦貳拾四時間
全壹冊　金貳拾四錢

梅田未荅庵主人著
いも菓子製法百種
全壹冊　金貳拾四錢

女子家庭實用
割烹會々長淺井傳三郎先生著
家庭實用 味噌料理二百種
全壹冊　金貳拾四錢

初號十五日發刊

贅六パックは「東京パック」の定期増刊をして毎月十日發行す東京パックは一日廿日發行

定價 壹部 拾參錢　十部 前金壹圓廿五錢　二十部 前金貳圓四十錢　郵稅共

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

各女學校御用

美術造花材料

附屬品不殘
製造品織物一式

東京市日本橋區横山町壹丁目十六番地

天野卯兵衛

電話（長）浪花一六四三番

……切……取……線……

營業目錄御入用ナレバ此切取ヲ添ヘ御申越被下度候

縣　郡　町村

家庭雜誌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ローヤル水ハ

最モ高等ナル最モ進歩セル最モ名譽アル化粧水ナリ

定價 拾錢 拾五錢 廿五錢

ローヤル白粉ハ

最モ改良セル最モ優等ナル無害ナル白粉ナリ

定價 拾錢 拾五錢 五拾錢

東京銀座壹丁目

發賣元 つやぶきん 佐々木商店

最良の博覽會みやげ

▽空前之大供提△

第一號形

參拾九鍵　保險三箇年

正價金拾八圓

特別減價

金拾五圓

松本風琴割引券

本社は東京博覽會紀念を兼ね本社工場完成祝賀の印として此券持參或は郵送の方へに本社製風琴壹割五分引にて販賣す

東京銀座四丁目四番地
（電話新橋二二九八）
松本樂器合資會社
（有効期限本年五月末日）

好機逸ス可ラズ！好機逸ス可ラズ!!松本樂器店ガ東京勸業博覽會ヲ紀念ス可ク特ニ五千臺ヲ限リ提供スベキすぶにあ、おるがんハ音律正確ニシテ頗ル堅牢而カモ携帶ニ最モ便ナルヲ以テ博覽會みやげトシテ蓋最良最好ノモノタリ松本樂器店ハ此ノ好紀念品ヲ限定ノ數ニ達スル迄ハ特別減價金拾五圓ヲ以テ貴需ニ應ズ好機逸ス可ラズ！好機逸ス可ラズ!!

東京市京橋區銀座四丁目四番地　松本樂器合資會社　電話二二

▽絶後之好紀念△

橋番

家庭雜誌

第五卷第七號

十分の春景

彥

◎春景、夏初に至つて初めて全たし。

◎花、花と云ひはやすけれど、只だ櫻の白雲が靆きわたつてゐるといふばかりでは、氣はそゞろに浮きたつもの丶、まだどうも十分に心ゆく景色とは思はれぬ。

◎それには、生籬にも、庭木にも、彼方の森にも、此方の林にも、野にも山にも到る處、生氣充ち滿ちたる新綠が燃え出でゝ、日は暖かに風は輕くといふ景色こそ、眞に我身に泌みわたる心地がする。

◎殊に其の四方八面新綠の間に、晩櫻一樹おもむろに咲きさかりて、剩さへ何處ともなく老鶯の聲の聞ゆる事などあらば、それこそ眞に十分の春景である。

◎柏木大久保あたり、此頃の朝夕、予は屢々此の風光の間に停立みて、覺えず夢幻の境に遊ぶ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人問題雜爼

堺利彦

男女の嫉妬

是れ實に過去現在の男女關係に於て重大切迫の問題である。多くの小說、多くの物語、多くの悶着、多くの騷動は常に此問題の爲に作られて居る。而して將來の新社會に於ける男女關係を想像する者も、亦常に此問題に就て多くの氣遣を抱いて居る。

そこで先づ此の嫉妬なる者の本質に就て考へて見るに、予は是を自然と人爲との二種類に別つ事が出來ると思ふ。

自然の嫉妬は即ち男女の結合に伴ふ自然の結果で、一方が他方に對し、其の結合を確實にし安全にせんと欲するの要求である。故に二人の關係が既に確立されて、最早何等の危險なきに至れば、其情は自然に消失する者である。而も其情の消失したるが爲に其の男女關係の親和が減ずる譯ではない。それで此の嫉妬の情は、未だ結婚せざる戀人の間、及び結婚後の一二年間に於て最も猛烈である。但し幾年の後と雖も、其一方の結合が不確實である場合には、必ず此情が繼續する者である。

次に人爲の嫉妬は所有權の觀念に基づく者で、普通の夫婦間に於て常に永く存在する者である。之を男子の側より云へば、何も必ずしも深く其女子を愛するが爲ではなく、只だ我が所有物の如く思へる其女子が、勝手に自ら其一身を處するを見て、憤りの念を起すのである。之を女子の側より云へば、我が幸福の源泉たる衣裳簞笥が忽ちに消失し、或は他の女子の簞笥となるべきを思うて、恐れの念を起すのである。此嫉妬は殊に社會狀態の直接の結果であるが故に、予は之を人爲と云ふのである。而して此種の情は前者ほどに猛烈ではないかも知れぬが、それでも隨分强度の熱を起す事もあり、又永久に繼續する點に於て殆んど慢性病の趣きがある。

蓋し太古の共產社會に在つては、種々なる形の離婚

が行はれて、男女關係が頗る自由であつたが爲に、嫉妬の情は假し一通り盛んであつたにせよ、未だ猛烈なる大勢力とは爲つて居なかつたのである。然るに其後、私有財産制の文明社會となつて、生活も戀愛も個人主義的に變じ、何につけても個人的感情が發達したので、此の嫉妬の情も亦た恐ろしきまで猛烈なる大勢力と化したのである。されば此の私有財産制の現社會が更に一變して新共産社會を現出する時には、所有權の觀念は全く無くなり、眞の人情に基づく戀愛は初めて其芽を吹き、人爲の嫉妬の如きは烟の如く消失し去り、自然の嫉妬も亦た必ず其度を得て只だ美はしき人情に歸するであらう。

避姙の福音

避姙と云へば只それ丈にて既に何となく不道德を意味するが如き感じもある。然し之を墮胎に比し、之を棄兒に比すれば、避姙は頗る道德的であるに相違ない。少くとも避姙をする丈の智慮の無い者が墮胎を爲し、棄兒を爲すに至るのである。又墮胎、棄兒の甚だしきに至らずとも、五人十人の子供を持ちて、多忙に追はれ、生活に疲れ、つく／＼人生の苦を嘆ずるが如き夫婦も決して少くはないが、是等は寧ろ早きに及んで避姙の智慮あつて然るべきものではあるまいか。

元來、生物の生殖には常に過剩の浪費があるもので、植物の種子が無數に撒布され、魚や混虫の卵が非常に多數である事は、人の等く知る所である。而も其の多數の中、生育を遂ぐるのは僅かに幾千萬分の一で、其他は悉く枯死するのである。然るに高等なる動植物に在つては、此の浪費が甚だ少くなり、人間に至つては最も少くなつて居るのである。例へば、鯡の卵は數の子と稱せられて、年々幾千萬を產するが、犬猫に至れば年々僅かに五疋十疋に過ぎず、更に人間に至れば數年に一回姙娠して、而も大抵は一回一人を產むのである。然しそれ程少い人間の出産でも、猶ほ時として過剩を感ずるので、遂に墮胎となり棄兒となるのである。所が此の墮胎なり棄兒なりは、鯡や犬猫に在つては通常の事で、初より產卵產兒の幾千萬分の一、或は幾分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の一が生育すればそれで善いと極めてあるのだが、情緒の發達したる人間に在つては、それが如何にも殘忍非道に感せられるのである。そこで墮胎棄兒は不道德なり罪惡なりとして之を罰し之を禁ずる事となつて居るのである。

然らば此の墮胎棄兒に代はるの法は何であるかと云ふに、即ち避姙の外は無いのである。英國のアンニーベサント女史の如きは、新マルサス主義と稱へて盛んに此の避姙説を唱導し、貧困を救濟して社會を改良するには、避姙の奬勵實行を以て第一と爲すと論じて居る。日本に於ても某々の諸氏は『社會改良實論』と稱する書を著して、大いに此主義を皷吹した。然し此書は眞に主義の爲にしたのであるか、賣藥『貴女之友』の廣告の爲にしたのであるか、それは判然と分らぬ。予等は必ずしも避姙を以て貧困救濟、社會改良の大政策なりと信ずる者ではない。又今の世に於ける人口過剩の憂は、決して眞の人口過剩ではなく、社會組織の不完全なる爲め、即ち資本家制度、國家制度より來る不自

然の結果である事を信ずる者である。然し現在多數の人が、多くの子を産みて生活に苦しみ、甚だしきは墮胎棄兒を爲すに至るを見ては、差しあたり一時一部の救濟策として避姙の福音を認めざるを得ざる者である。

然らば避姙の方法は如何。是は專門の醫者等に就て學ぶべき事であるが、要するに或る無害なる藥品器具を用ゐるも亦蓋し止むを得ぬ事であらう。然し斯くの如き方法は、如何にも不自然で、常に何等かの不快を伴ひ、又必ず有効であるとも限らぬ。故に若し他に一層自然なる方法がありとすれば、何人も其の自然に從ふを喜ぶであらう。

世には避姙を以て不自然なり不道德なりと爲し、汝若し子を産むを欲せずんば、何ぞ初より全然性交を避けざるやと說く者がある。然し斯くの如き道德家、宗敎家の類は、眞の人情を解せざる若輩か、若しくば自ら欺き人を欺くの僞善家である。尤も或種の賢人變人に對しては此の絕對禁慾も亦た頗る妙であるか知らぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、一般の人間に對しては到底是れ不可能の事である。然し又、絕對の禁慾に非ずして、節制克已を以て善く性慾を導くは、人情の爲にも、健康の爲にも、而うして亦避姙の爲にも必要である。

専門家の說に依るに、姙娠は大抵月經後一二週日の間に遂げらるゝとの事である。然らば其の期間を避くるは即ち最も自然なる避姙の法である。但し此法が果して常に避姙の目的を達するか否かは予輩の未だ知り得ざる所である。

更に人類將來の進步に就て考ふるに、人口激增の憂（即ち生殖率過多の憂）が今日に在るとしても、それは或人種の發達中に於ける一時的の現象で、何時かは必ず相當にして過不及なき水準に歸するであらうと思ふ、又人の性慾の强盛に過ぎて、時として病的の觀を呈するのも、是亦种々の原因より來る一時的の現象で、將來の新社會に於て、單純清潔なる衣食住を爲し、多く新鮮なる大氣中に生活し、趣味智識の範圍を廣め、一般友愛の情を高むる時には性慾も亦必ず其の動物的本能より脫却して自然穩當の趣きを備ふるに至るであらう。（以上多くカーペンター氏に據る）

芝公園の逍遙

小劍

婦人博覽會と云ふものを觀た。ミシンや造花の實演があつて面白かつたが、少しやつては休み、少しやつては休みするところは、實演で無くて虛演(?)であらうなどと、惡口を云ひたくなつた。さりとて活人畫と云ふものゝやうに、虛榮の標本を觀せられるのとは違つて、働いて居るところを見せられるのだなら、甚だ愉快であつた。

山の芋が鰻になると云ふことは、かねがね聞いて居るが、勸工場が博覽會になつて、それが入口から半ば頃までが博覽會で、半ば頃から出口までが元の勸工場だから、丁度山の芋が半分鰻になつたやうなものだとは、僕の婦人博覽會を觀た時の感じであつた。但し勸工場と云ふものは、おハチだの、簞笥だの、鏡臺だの、多く婦人向きのものを賣つて居るから、これも一種の婦人博覽會と云へば云はれる。

婦人博覽會を出て、增上寺の黑本尊の開帳を觀に行つて、須彌壇の前に立つて、眞ッ黑な佛樣を觀て居ると、横の方に居た青いころもを着た坊さんが、僕の顏を睨む。ハッと氣がついて後の方を見ると、多くの善男善女が平伏してお賽錢をあげて居る。流石に無作法な僕も、これには少し驚いて、キマリの惡い思ひをしながら、善男善女の群に入つて、一錢のお賽錢をあげた。瞬間のイドラートル、一寸滑稽な事であつた。

非墳墓論（上）

若宮卯之助

山の頂まで耕し盡くして今は南京米の輸入國となつて居る日本も、昔は瑞穗の國と呼ばれたのだ。貞節堅固のしるしまでに後室さまのフッツリお切りなさる綠の髮も、本を正せば人身御供の名殘である。今日人の眼に慣れ耳に慣れて何等の感興を催しない平凡の事實も、遠く遡りて其の源をたづぬると意外に新しき意義を示すこともあるといふが、予は今此の心にて少しく墳墓の變遷を考へてみたい。

人の性質は社會的であると共にまた非社會的であるが如く、進歩的のやうに見えて意外に保守的であるのも亦人の氣風である。日常の生活に直接關係のある事柄の間にこそ自由競爭の行はれて刻々進歩の跡も見ゆるが、冠婚葬祭の如く主として儀式に留ることは非常に保守的であつて容易に變化を容るすものでない。草莽布衣の臣たる予はいまだに參拜の譽を得ねど、畏

れ多き千代田の宮にも多分は電燈電話の備はあらう。しかし年の始の四方拜は中々以て西洋文明の干渉を肯づべき性質のものでない。汽車あり、汽船あり、角帽あり、海老茶あり、明治の社會も多大の變形を經ては居るが、五月鯉は之が爲に何等の影響をも蒙らで、季到れば吹き流されて江戸ッ兒氣質を空に示して居る。屍を燒いて荼毘一抹の烟と爲すことは我等已に之を認めてゐるけれども、なぜその烟の餘りを拾ひ收めて之を葬り之を展するを以て人生の重なる營の一とも爲すのであるか。右手相握りて左手相搏つ今の國際關係に不思議を懷かぬ人には何等の怪事でないかも知れぬ。されど進歩を認め、自由を認め、理想あり、インサイトある者にとりては眞に容易ならぬ疑問である。

今日では權利や、自由やは已に人生の一部となり、之が爲に自由廢業もでき、同盟罷工も一大勢力となつた位だが、我等の祖先は此の如きことを夢想だもせずに百千萬年を過ごして來たのだ。此の一事を觀ても古今の思想に一大徑庭の存することはわかるが、最もよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く之を例解する者は死に對する觀念である。
太古の人は年老い力盡くるとき人は自ら死に就く者とは考へなかつたので、人より殺さるゝか、魔物の爲に災を蒙むるか、長き眠に入るかによりて、人の精神は始めて人の身體を去るものであると考へて居た。されば今日現存の野蠻人の言語には「眠」と「死」とが異語同義たる場合がある。近くはアイヌの如き其一例である(牧師バチエラー氏に據る)。而して太古の人をして二個の我、即ち有形の我と無形の我の共存を想はしめた事情はいくらもある。即ち光線の理に暗いので形に伴ふ影を我の異體と認め、音響の理に通せぬので山彦の響は異なる我れの聲ときゝ違へた。夢に胡蝶と化して覺めて復た人間となるも畢竟二個の我あるに由ると思つたのだ。白髪以外の公道たる死の到るは、有形の我亡びて無形の我他界に遊ぶのであると思つたのだ。
眼耳鼻舌の我亡びても喜怒哀樂の情けは彼の世と此の世に差別なしと太古の人は考へて居た。即ち四肢五體ありての苦樂は四大五薀空に歸して後も尚ほ同性質

であるとするのが太古の人の無邪氣なる推理であつた。否たゞに太古の人のみでない。今日直譯的にヤソ教を信ずる者は二十世紀文明の中心たる歐洲に在りても痛く死後の賞罰を氣にして居るが、これまた太古の人と同位なる無邪氣なる推理である。此の如き事情を明にして始めて太古の人の葬儀を理會することはできるのだが、サテ死骸の處分の仕方は土地により、人種により、あまりに種類多く、之を締めくゝりて歷史的階級を定むることは殆ど不可能である。屍を水に投じて魚腹に葬るのもある、自ら其肉の一部を食ふことを禮式ともするのもある、腐敗すべき部分を特に擇んで禽獸に與ふるのもある、樹頭や枝上に晒すのもある、洞穴をもとめて之に鎖すのもある、臟腑をとり出して別に瓶につめ、軀幹を乾はかして木伊乃とするのもある、普通の土葬や火葬は我等が眼前の事實である。そして死骸の終極は水に投ずるの外は必ず地下に埋葬されて居る。此の如く葬儀の形式は頗る變化に富むが葬儀の精神は同一であつて生者と等しき慾望を有する死

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者を慰め、その慾を滿たし、時に其の力の助を藉るを目的とすることは總ての人種を通じての一大事實である而して墳墓は實に彼の世に逝ける人の要求に應せんが爲に目論見出された地上の受付處の如きものである。

太古の人が無形の我を信じて居た證據として擧くべきものは埋葬に伴ふ物品である。冥途の長亭短亭はサゾ淋しかろといふので人身御供といふ事が行はれた。三途の川の渡賃といふのが所謂六道錢である。米國インデアンの或種族の間では小供の屍を葬むる時、冥途の道案内をさす爲小狗を殺して之に伴はす習慣もある。身分ある者は武器を具し、老いたる者は杖を携へ行く例はいくらもある。墓は亡者の爲に家の用を爲すので、家なきは天下の浪人たるが如く、墓なき亡者は宇宙に迷ひ、生前に關係あつた人に祟りを爲す者也と考えて居たとに就いてはラボック(今のエーバリー卿)タイラー、スペンサー、ジョーリー、ルトウルイの著書に多くの例證もあり精しき説明もあるが予は之を略す

希臘人、羅馬人の祖先も墓石の頂に酒をあびせ、墓前に食物を捧げたことがあるとはド、クーランヂの證明する所で一點の疑はない。されば墳墓は迷明兩界の通信交換所也といふことは古今東西を通じて總ての人種の認めた事實である。

考古學上より墓を考へてみると舊石器時代に於ては殆ど墓と稱すべき物は見あたらないが、新石器時代に入りて土葬起り、火葬之に次ぎ、この二個の形式は兩々相並んで青銅器時代を經て鐵器時代に至り、電氣力全盛の今日に於て更に其競爭を持續して居るのである。

墓の形式は此の如く石器時代以來殆と何等の變化をみぬやうであるが、死に對する觀念は正に一大革命を經つゝあるではないか、然らは墓の形式も亦た一大革命を要すべきであるまいか。是れ予の玆に非墳墓論を草する所以である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謂はゆる人畜生

深尾韶

（一）

君、今更泣いたつて仕様が無いぢやないか、煩悶死を決すだなんて、そんな古風な事はよしてくれたまへ。ばか／＼しい。

ばか／＼しいと、一概にけなしたら、君は同情が無いと怒るかも知れないが、然しボクは今、理性の上からばかり話したい。そりや君の此行掛りに同情したら際限が無い。ボクの様な意氣地の無い人間は、感情の方から行つたら唯君と相擁して泣くよりは外はありやしない。勿論ボクだつて冷血動物ぢや無いから、此の行つまつた君の身の上に對しては他人のするより以上の同情心も持つてゐる。泣きたまへ。泣きたまへ。涙の涸れるまで泣たまへ。弱い人間だもの、仕方が無い。

（二）

君が其金持の養子になつたのが抑々あやまりの元だつたねえ。だからボクも言はない事ぢや無かつた、金持へ、而も婿になんぞ行く奴があるものかつて。けれど今になつちや仕方が無い。君は永世に其家に留まつて三人と仲よく暮らすより外ない。世間の評？そんな事は恐れるにや及ばない。世間におべつかを使つてチヤホヤ言はれたところが、死ぬ時には死ぬ。だから吾々は吾々の信ずる所を大膽に行つて、それで世間が捨てるなら捨てゝ貰はうぢや無いか。惡るく言ふなら言つて貰ふが善い。どうせ弱者の生命を呪ふ世間の、其くだらぬ思はくなんぞを考へたつてどうなるものか。

然し今度の事は別に君の信念から出たと云ふ譯でも無し、君自身すらも愛想を竭かしてゐる様に見えるが、それも是も出來た事だ。そう成つて來た事實をベチヤクチヤ理屈で押へた所が消えるものでも無い。ボクは事實は事實にして在る事なりと思ふから、もう此塲合空理や空論は何の役にも立たぬものと考へる。ボクは理論や道徳に合はぬ行爲を咎めるよりも、行爲に合はぬ理論や道徳を迂遠だと言つてやりたい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（三）

文科大學生、母子三人と姦す。と云つたら好箇の新聞三面記事だ。三面記者は二號活字位ゐな見出を付けて、人畜生とも獸漢とも罵るだらう。君の屬する基督教會の牧師が聞いたら驚いて破門もするだらう。

男女問題については隨分急進黨なりと、みづから許してゐるボクでさへ、初めて聞いた時は驚いたからね。實際の局に當る君が死なうとまでいふ事件だからね。蚤の睾丸より小さな膽ッ玉の世人が驚くのも無理は無い。實の所、ボクだつて君があれほどによく事情の全部を打明けてくれなければ、或は今頃は大に君を罵る態度に出てゐたかも知れないのさ。ボクは君が流石にクリスチャンらしい措置をしてくれたのをホントに嬉しく思ふ。

（四）

狹霧の中、夕月のおぼろに匂ふ田圃道に散歩しての歸りに、ゆくりなく君の見た稻叢の蔭の情事。小説の樣な出來事。成程、戀に飢ゑた女はあゝして切なる情

を遣るのであらう。女と女の情事、今まではそんなこともあるとは聞いてゐたが。君の妻君の妹は十六、先生は二十九。道徳とか貞操とか云ふ體のよい繩に縛られた二十九の女の、やるせなき心をボクも今知る事が出來た。先生の去つた跡、やゝ失心せる、美くしき、髮は黒く、顔は白く、リボンは赤く、袴は紫なる乙女の、惜氣もなく月を浴びた風情が、先程からの先生の情事に頭を攪亂せられた青年の淫心を圖らずも挑發した――あゝボクはどして君の此時の行ひを咎めやう！神ならぬ君の、夜目ゆえ義妹と知るよしの無かつたのも、こりや何かの因縁かも知れない。

（五）

君の妻君の母親――然りボクは敢て妻君のと云ふ――は未だ三十六の若盛り。五年前に良人を亡したと云ふんぢや無いか。二十九、三十六。七つ差ふだけだ。而も人間の体力最も旺盛の時代だ。

妻君は病よからずして暫らく伊豆へ湯治に行つて居た綾子君亦學校の寄宿舍へ入つて居て家に在らずといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

際に、受動的に君の犯した罪、ボクは又責むべき言葉を持たない。

（六）

此關係の今倘斷つことの出來ぬを悶えて、みづから『死ぬべき運命の畜生』と稱して居る君を思ふ時、ボクは實に言ひ知らぬ悲しさを覺える。然り、君の言ふ如く實に君は薄志弱行の人に違ひない。けれどもだ、けれどもだ、誰か薄志弱行たらざるものがあるか、此苦しい矛盾に。切ない義理に。劇しい肉慾に。

君は之を母子三人の前に思ひ切つて打明けたと云ふ。そして何卒三人とも自分を憎んでくれ、離縁してくれと申出たと云ふ。えらい！君は吾友だ。よく決心してくれた。

四人相擁して一晩を泣明かしたと云ふ。そうであつたらう。こんな場合に道德と云ふ冷酷な敎へは只『死ね』と囁やくばかりだからね。

一晩泣明かした果が、やはり此儘で四人が仲よく暮らして行かうと云ふ事になつたと？。ボクはそれを聞

いて最後の涙を絞つた。健氣な決心だ。ボクはモウ理屈は云はぬ。事實を事實として行かしめよだ。

善くは知らないが、聖書の創世紀か何かに、實の父と其娘姉妹とが相姦して子を産んだ事か書いてあつた樣に覺えてゐる。そんな血族結婚は生理上に不利益な點があるけれど、君の樣な場合には人間の作つた道德と云ふものゝ外に咎めるものは無い。唯事實を事實として行かしめよだ。殊に三人が仲よく暮らして行かうと云ふのだから、こんな事で人間のまだ敎育に依つて害はれぬ赤裸々の至善な感情を味はうのも妙では無いか、君はモウ死ぬにも及ばず、煩悶するにも及ばない。

ボクは何日か折を見て、ボクの抱懷する『性交と飲食とは同一性質のものだ』と云ふ說をシンミリと君に話したいと思つてゐる。

散る花に姫ものおもふ夕哉　　傘　瀬
宵靜けきに落花繚亂猫狂亂
散る花を鐘誘ふらし其命

ジャガ芋料理

山田嘉吉

（一）マシユ、ポテトー Mashed Potetoes

（一）皮をむきてよく煮、
（二）水を切りて牛乳とバタとを入れ、
（三）更に胡椒と塩とを入れ、
（四）スリコギにて滑になるまで掻き廻はす、

（二）ポテトー、スフレ Potato soufflé

（一）マシユ、ポテトー　一と茶碗
（二）卵黄　二ツ
（三）とを掻きませて、其の中へ、
（四）更に卵白を二つ、よく掻き廻はして、
（五）之れを焼盤の中に入れ爐にて焼く、

（三）ポテトー、クロケツト Potato croquette

（一）マシユ、ポテトーに卵黄をませ、
（二）瓶の口にはめる栓の形にまるめて、
（三）卵白の中へころがし、

（四）澤山の油の中であげる、

（四）ポテトー、ボール Potato balls

（一）マシユ、ポテトーを團子にまるめ、
（二）バタであげる、
（三）又はマシユ、ポテトーを用ゐずに、まるく切つて煮たのをあげても善い、

（五）スタフド、ポテトー Stuffed Potatoes

（一）皮のまゝジャガ芋を焼き、
（二）取り出して上部を切り、中實をゑぐり出す。
（三）此の中實をつぶして、バタと和蘭芹を刻んだものとを入れ、
（四）之れをもとの皮の中へつめる、
（五）口に卵黄をぬり、黄色になるまで爐で焼く、

（六）リヨネーズ、ポテトー Lyonnaise Potatoes

（一）煮て冷したジャガ芋を薄く切り、之れを、
（二）葱を薄く切つてバタで煎つた中へ入れ、
（三）殘らず茶色になるまで油であげる。
（四）塩と胡椒と芹とをふりかける、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(七)パフドー、ポテトー Puffed Potatoes

(一)蒲鉾なりに皮をむき鉋でけづる、

(二)油煮鍋二ツを用意し、

(三)一ツにはあまり熱くない油でまづあげる。柔かになる。之れをとりあげて、

(四)次に他の一ツの鍋には極く熱い油を煮立てゝ、之れをあげるこれでふくれる、

(五)芋は新しくて水氣があつてはわるい。しなびて、少し柔かになつてゐるのでなければならぬ。

(八)ニユー、ポテトー New Potatoes

(一)皮のまゝ煮る。煮た後皮をむく、

(二)バタの中へころがし、芹をふりかけて出す、

(三)古い芋も小いのは斯うして出してもよろしい、

(九)スヰート、ポテトー Sweet Potatoes

(一)爐で燒く、

(二)又は煮てもよし、

(三)皮をとり、四角に切つて油にあげてもよし、

(四)砂糖で煮つめる事もある、

(十)フライド、ポテトー Fried Potatoes

フライド、ポテトーには幾種類もあるが、其のうちのフレンチ、フライド、ポテトー French fried Potatoes とパリシアン、フライド、ポテトー Pari sien fried Potatoes とサラトガチツプス Saratoga chips の三種を説明する、

フレンチ及びパリジアン、フライド、ポテトー

(一)皮をむき細かに切る。フレンチ風なら細長く切る。パリシアン風なら丸くさしわたし三分位に切る、

(二)水に漬けおく。又つけずに直にフライしてもよし、

(三)ラードを油煎鍋に入れて油の最も熱くなつた時、刻んだジヤガ芋を取り出して入れる、

(四)鳶色になつた時取りあげる、

サラトガ、チツプス

(一)ジヤガ芋の皮をむいて鉋でうすく切る、

(二)水にしばらくつけて、取りあげてよく水を切る、

(三)少しづゝフライする、

(四)一度に多くフライすると、もろくなつて碎け易い、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

米國婦人運動小史

大杉榮

婦人運動の先鋒者

米國婦人は、世界に於ける婦人運動の先鋒者であつて、既に獨立戰爭（一七七六年—八三年）の頃から盛んに其の運動を始めてゐる。或は婦人權利運動といひ、或は婦人運動といひ、或は婦人選擧運動といふもの、皆即ちこれである、

一七八七年、始めてフィラデルフィアの大會に、婦人の選擧權を要求した。大會は之れを拒非した。元來此の選擧の事は、各州が其の思ふが儘に規定してゐたので、此の大會に參列した十三州の中にも、九州だけは既に婦人に選擧權を與へてゐ、僅かに四州だけが女性を排斥してゐたのである。

此の政治運動は、一八四〇年頃から奴隷廢止運動の影響を受けて、殊に强烈を極むるやうになつた。

奴隷廢止運動と云へば、全世界の人士が米國の黒人

に深厚な同情を寄せるに至つたのは、全く一婦人の書即ちハーリエット、ビーチァー、ストーのアンクル、トムス、キアビンの力である事は、今更に言葉を費す要もあるまいと思ふ。猶此のビーチアー、ストーと前後して奴隷廢止運動に從事した有力な婦人數名を擧げれば、クェーカー宗徒のルユクレチア、モットや、代議士エンデル、フィリップの夫人エリザベス、ピースや、又彼の有名なエリザベス、ケデー、スタントンなどがゐる。

倫敦奴隷廢止萬國大會

一八四〇年、倫敦に奴隷廢止萬國大會が開かれて、前述の婦人等は米國婦人奴隷廢止協會の代表者として英國に渡航した。然るに奴隷廢止萬國大會は、婦人は政治的能力を有せざるものである、法律上の未成年者であると云つて、遂に其の代表者たる事を拒んで、僅かに傍聽人として廻廊の中に其の席を與へた。

或る日、會場から宿屋に歸つて來て、エリザベス、ケデー、スタントンはルユクチア、モットに向つて、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大に奮慨して云つた。「亞米利加に歸つたら、黒人奴隷の事よりも、婦人奴隷の事を論ずる集會を開かねばならぬ」

かくして二人は、歸國後直ちに其の運動にとりかゝつた。やがて、しば／＼演説會は開かれる。聽衆は其の度毎に堂に溢れるやうになる。新聞紙も盛んにこれを書き立てる。遂に、黒人奴隷の解放と共に白人婦人の解放と云ふ事が、甚だ趣味ある輿論となつた。

これと同時に、一六に多數の新婦人運動者を輩出せしめたるルユシー、ストンの如きは、其の中にも最も重要な人物であつた。

ルユシー、ストン

ルユシー、ストンは一八一八年に一農夫の家に生れて、田舍の難澁な生活の下に人となつて、他日の活動の資たる强健の體力を此處に養つた。

幼年の時であるが、突然『なぜ女は男に服從せねばならぬのか』と質問して、其の母を驚かした。母は基督教徒であつたので、聖書の言葉を引いては之れに答

へてゐた。

其の後、彼女は創世紀をひもといて、夫は妻の主人たるべきものであると云つに至つて、此の聖書の反譯は必ず誤つてゐるのだと信じて、聖書の原書を研究するために、ヘブルー語とギリシャ語とを學ばうと思つた。そして其の事を父に語つて、大學にやつて與れと願つた。すると父は、氣でも違つたのかと云つて、少しも取りあはない。そこで彼女は、或は野菜を賣り或は菓物を賣つて、自ら大學に入る學費を得やうと決心して、遂に一八四三年、年廿五の時に此の望を達する事を得た。

一八四七年、大學の課程を終えて、文學士の稱號を得て、直ちに奴隷廢止協會の會員となつて、演壇に立つて黒人と婦人との二解放を絶叫する、人道の戰士となつた。

米國婦人選擧協會

此等の婦人の勇敢な忍耐深い盡力によつて、新婦人協會は到る處に設立せられて、遂に一八四一年にはセ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ユカラオールに於て第一回新婦人大會（フェミニスト、コングレス）を催し、一八五〇年にはウールセスタールに第二回大會を開くに至つた。此の二大會に於ては主として、婦人も男子と等しく政治の權力を得ねばならぬ事を論議した。

一八六二年から一八六五年に至る間は、南北戰爭のために婦人運動も暫く中止の姿であつた。然るに一八六六年に奴隷廢止が實行せられて、黒人は自由人となつたけれども、此の奴隷廢止のために心血をしぼつた白人婦人は、依然として奴隷の境遇を免れない。是に於て米國婦人は再び猛然として其の頭をもたげた。

一八六九年に、婦人の選擧運動を目的とする協會が二ツまで現はれて、更に此の二ツのものを合せて米國婦人選擧協會なるものを組織した。猶進んで一八七〇年には、婦人新聞と稱する週刊新聞を發行した。

やがて此の米國婦人選擧協會は、米國に於て一大勢力となつて、ケデー、スタントンを名譽會長に、ライト、セラルを會長に戴いて、本部をワシントンに置いて、毎年其の大會を開いた。彼等は常に『吾人の政治

的自由は、決して天から降つて來るものでない、之れを得るためには先づ闘はねばならぬ』と叫んで、熱心に其の傳道と運動とに勉めた。

斯くの如くにして米國の婦人は、爾後數十年の間に村會議員、市會議員、州會議員の選擧に、或は選擧人たり、或は被選擧人たるの權を、各州に於て獲得した。けれども國會の上院下院の議員及び大統領の選擧には未だ一指を染むる事も出來ない。

◎石川、山口兩君の入獄

本誌の舊い寄書家の石川旭山君と新らしい寄書家の山口孤劍君とは、共に主義の犧牲となり、平民新聞紙上「父母を蹴れ」てふ論文が、秩序壞亂の罪に問はれ、石川君は發行兼編輯人として六ヶ月、山口君は筆者として三ヶ月の輕禁錮に處せられ、去月二十五日、東京監獄へ入られました。兩君尙兩君は監獄に於て大なる未來を持つて居られます。兩君はなほ數組の事件を背負ふて居られるのです。これらを皆通算して見ますと、石川君は實に十三ヶ月、山口君も亦八ヶ月の永い間鐵窓の下に淋しき朝夕を送られねばならぬのです。私共は今兩君に對していふべき語を持ちません。獄裡では何よりも外からの音信が樂しみです。どうぞ皆さんも時々手紙をあげて下さい。

▲宛名は東京市牛込區市ヶ谷、京東監獄在監人

石川三四郞、山口義三、

女學校の倫理に就いて

中尾清太郎

女學校の倫理と題したけれども、寧ろ改めて中等敎育の倫理とした方が、余の本意である。余は久しく中等敎育に從ひ、(中間、女學校に働きたる事もあり)、又實際倫理の科にも當つた事があるが、中等敎育に於いて、倫理といふものが、何故に學科の一ツを占めつゝあるか、とは先づ第一の疑問であつた。又竊に生徒の倫理に對する不平を聞き、嘆聲を耳にする毎には、彼等が何故に倫理を喜ばざるか。何故に面白しとせざるかを怪んだ。且つ中等程度の學科には、「操行」と云つて、平生の外部行爲を律する爲の學科に準ずべきものがあつて、これを何點とか、甲とか、乙とか判定しつゝあることをも不思議がつたものである。此感は十數年の間を過ぎて今日に至ると雖も、毫も變はりもせねば、些しも減じもせぬ。變りも減じもせぬのは、倫理敎育の方で、未だ一進步、一轉化をも示して居らぬか

らである。

余は倫理、之を學として專攻する時は格別のこと。中等敎育に於ては、固より學でなくして事實若くは感化其者でなければならぬと思ふ。即ち美しき事實でよい方へ誘ひ込むのである。又よい感じで美しい方へ導くのである。徒らに千篇一律の理論や、乾燥無味なる忠孝談の材料で困めるのでは無い。其敎授方式は講話でやるとも、修身といふ名でやるとも、面白いといふことを主眼として、懸るのである。若し學校の時間配當上、都合がわるければ、特に倫理といふ時間は無くてもよい。國語の時間でも、歷史の時間でも、否如何なる學科の時間でも、否々あらゆる學科に跨つて、敎師に其心得と其手腕とさへあらば、倫理敎育の事業は擧がるわけである。然るに今日中等敎育のすべての學校では、必ず倫理時間を割付け、或は全生徒を講堂に集め、或は級別々のまゝ、校長若しくは倫理敎師よりいつも君子然と構へた勿體振りに、鹿爪らしいことのみを語り續けさせ、全く聽く者をして飽かしめてゐる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のである。尤も鹿爪らしい理論を敎へることを惡いといふのでは無い。人生問題の難解なるものを説くには却つて多くの理論を要することもある。併し其説き方其の説き方に用ふる種々の材料、是等を面白いやうに塩梅して懸らねば効果は擧がるもので無い。斯う云へば、難ずる者は、汝も亦平凡の論を爲すもの哉と笑はう。が今日の實際に於て、多數の各學校の生徒が倫理の時間と云へば、直ちに「又か」と言はぬばかりに顔をしかめて、其敎室に入ることを避けんとするものは、何故であらうか。余はそこに充分斟酌すべき理由の存することを認める。

　つまり今日の倫理敎育の方針が忠君愛國とか、良妻賢母とかいふ一種の凡人主義（余は經濟上の凡人主義は賛成だが、敎育上の凡人主義は大反對だ）になつて、能も不能も、才も非才も、打つて一樣の型式に鑄込まむとする誤謬に基づくので、隨つて之に用ゐらるゝ敎育方法や、敎授材料や、説明や、解釋や、すべて死んでゐて、生命がないから、敎ふる者、敎へらるゝ者、

共に面白くないことになるのである。これに加ふるに之を語る人が、所謂「道學先生」であつて、倫理修身といへば、何でも彼でも道德上の談話實例でなければならぬと思ひ込んでゐるので、これで一層面白くないことになる。一體道德上の話といふのは、面白くないもので、若し面白いのがあれば、これは寧ろ奇態―否之れはよく分析して見ると、道德ならぬ分子が混つてゐるからだ―で、原則にはならぬ。然るに一般道學先生の校長又は倫理敎師は、詢に其邊御察しもなく、不相變、變化融通のない道德談を續けて、青春善よりも美を慕ふこと切なる少年男女をして澁面退屈せしめて、「倫理」とは斯樣なものにて候とは、實以て沙汰の限である。

　宗敎は悟らせ、道德は敎へ、文藝は樂ます。倫理講話を面白くやるのは、此の文藝を加味するに在る。此塩梅を缺く時は、即ち欠伸が混り、退屈が出て來る、餘り道德的なる結果、遂に面白くなくなるのである。今一ッ倫理講話に、――寧ろ倫理敎師に必要なものは、

同情である。殊に女子を相手とする時に於て、直接女子に向けられたる同情を、女子自身の腹中に打ち込む用意を忘れてはならぬ。それですべては、生徒が興味になつて聴かぬ。同情は灸所を穿つに依る。なほ約言すれば談話に饒な。文藝的趣味を入れ、教師に深き同情を抱かしむることである。

之は中央幼年學校の話と聞いてゐるが、曾て新校長の披露のあつた席で、校長は教師を顧みて、諸君の中何か生徒に話す事はないかと云つたとき、赤堀又次郎といふ一教師は、つと起つて「此の學校の教頭がする倫理は、少しも面白くないさうで、生徒は高等の催眠劑と呼んでゐる、斯かる講話は廢めた方がよからう」と述べた。並みゐる教師の喫驚は勿論、中にも教頭先生の面目なさは想ひ遣られた次第であつた。蓋し今日の中等教育に於ける倫理といふものは、男女の學校に拘はらず、總じて斯くの如き非難を免れないので若し赤堀氏をして聴かしむるならば、どれもこれも悉く其侃諤の舌に割られぬものは無からう。倫理といふものを勘違へして、之を面白く説き、灸所に打ち込むことを知らぬからの過に歸する。

之に反して早稻田中學に於ける坪内雄藏氏の倫理講話（今は廢めたと云ふが）、若しくは成女學校に於ける宮田修君のそれ、前者の斬新にして面白いことは今更紹介するまでもないことで、其一班は彼の著「通俗倫理談」にても推し量られる。後者も又なか〳〵面白く説くことに妙を得て、文藝の趣味に溢れてゐるといふ。以上の二氏は孰れも文藝的で、殊に前者に於て、余の所謂同情が倫理の基礎として説かれてゐる。然も余は必ずしも沙翁を援かねばならぬ、イブセンを説かねばならぬ、といふので無く、趣味若しくは傾向として藝術的なれといふのである。決して輕はずみの講釋師や、落語家になれと勸むるのでは無い。

或學校では『論語抄』の如き、東洋道德の標本を用ゐてゐる所もある。又中島德藏の『明治女大學』といふ、舊道德八分。新道德二分といふ割合のものも、今新しく教科書として提供せられてゐるときである。併し教

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

科書は何でもよい。文部省が喧しく云へば、悧巧に砕けて、御指圖通りの敎科書を撰び、之を批評的に用ゐれば、又一層のお慰みであらう。面白からぬ敎科書をも面白く說き、之をよいやうに用ゐるのは、言ひ換ふれば、之を時勢に適するやうに、個人に利するやうに、形を變へ、精神を入れ更へて、我物とするのは、敎師其人の能力に在る。所が、悲哉、今日そのやうな敎師はゐない。之は敎師自身が、常に修養を懈つてゐるからである。否、眞の原因は、文部省が敎師養成の方針を誤つて、(廣く言へば敎育の方針を誤つて)、全く器械的に、人形でも造るやうな氣で、敎師を造つたからである、倫理の先生と云へば若くても、老人でも、皆表面で鹿爪らしい風采を粧ふて(內實は酒を飲まうが、女を玩ばうが、イヤ倫理の先生にそんなのが多い!)いかにも眞面目臭つたことを饒舌るものと、世間の相場までを定めて了つたのは、決して生徒の罪ではない。殊に高師出身と來たら、他の科の受持敎師でも一樣に然りであるから、實に堪つたものでない。いつも千篇

一律の純道德談で持ち切つて、其の固き事カリン糖の如く、其味は蠟に似たものであらう。忠とか孝とか、良妻たるべしとか、賢母たるべしとか、そんな空々しい、抽象名詞や、坩堝で流し込むやうな鉛あつかひの御託には、今の少年青年は餘りに開け過ぎてゐる。儒敎と武士道とで扣き上げたやうな谷子の家庭に育つた娘さん(建部博士の舊夫人)でも、夫の家を逃げ出して來る世の中だ。日露戰爭の初、旅順陣歿の第一人で、名譽とやらを輝した三浦少尉の未亡人が、再び切り髮を伸ばして情夫と手を携へて雲隱れする世の中だ。『肉彈』の著者櫻井中尉が、病める先婦を離婚して、新妻を迎へる世の中だ。さうして是等の諸氏は皆文部省の訓令を奉ずる諸學校で、倫理敎育を受けられた方々である。それで何うして斯樣な惡結果に及んだか、言ふまでもなく嚴肅仕立の形式主義で、うはべの整はむことばかりを期した無精神敎育の弊害である。短く言へば、面白くなかつたから、眞當に聽き込んで心から導かれてゐなかつたのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

元來倫理といふものは、爾し面白くなくするものではないので、殊に中等教育に於けるそれは、面白くあるべきものであらねばならぬ。其手加減、遣り口は生徒をして樂ませしめつゝ、敎へて行くことである。生徒敎師笑の裡に導いて行くことである。怒り付けたり、叱り付けたり、唯威嚴を見せたり、勿體振つたり、むづかしく、鹿爪らしくするのならば、倫理敎育は無益である。講話の材料に就いて言つても、從來の如く百萬遍も繰り返された歷史談や、紋切形の抽象論では面白くない。始終目先の變はるやうな、もつと社會種や時事種をも加へ、それらを通じて、すべて藝術的趣味に滿ち、若しくは藝術的に組み立てられてあるやうにせねばならぬ。さうして其上敎師自身に溢れる同情があつたならば、最早申し分はないので、生徒は喜んで、誘ひ込まれて、一言一句も洩らさじと耳を傾くるに至るに違はない。野暮な道德先生に告げるのだから、少し諄く言つて置く。

（をはり）

春雨の街

德永莊風

春雨の街の夕を袖かざし艷なる人のぬれ〱ゆく
なつかしき消息らしうひゞきして春の圓石あたゝかにゐる
うすき闇こは幽明をへだてたる二人が中の壁と思ひぬ
うつくしき蝶のつばさに鏤ばめる金粉とびぬ花のうへなる
春の髮ほつるゝ頃におとなひて來よとうれしき目していふかな
人一人咒ひおとしゝ夕よりもの狂ほしき我となりにし
はなやげる言葉の中に數おほき詐りをもつ才長けき子よ
やけ石の熱きを思ひやがてまた冷えむをおもひ心わびぬれ
胸の家君去る日とて蛬は哀しき調にうたひ出でける
春の夜の暗にちりしく櫻花星と思ひぬ美しむ時
春の日の焰をわたす花とみて心ひきけれ瞳ひそかに
黑髮のもつろが如きおん怒り何もてとかんやうなきに泣く
ほつれてはなびきの姿みだらなる柳の街のおかしき夕
京の街たま〱見てはなつかしむ橋のたもとに船に住む人
人住むによき頃とこそなりにけれ胸の家には春の灯かげし
鬼侍たる悲しみに似て氷なす冷たき石をあたへられたれ
結ひそめの髮の形のむらさきの花の如しと後ろにほめぬ
しめやかに二人をつゝみ秘密てふものをつくりぬ大き野の霞
ひやゝかの光りをおくる銀の針かと怖る道を說く人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

羅馬の家庭

しらぬ火

▼世界歴史に驚くべき勢力を發揮して居る、羅馬の國の家庭はどんなであつたか、一寸研究して見るのも強ち無益な業ではあるまい。

▼婦人●●　先づ婦人はどんな境遇に居つたかといふと、羅馬の婦人は決して自由な身分ではなかつた。處女の時代には全く父の權威の下に壓服せられて居て、父が其夫となるべき男を選擇してくれる。しかし結婚したからと云つて自由にはなれない。今度はすべて夫の權内に屬せられてしまふのである。時の法律家は云つて居る。彼女は夫の手中にあり、彼女は恰も彼の娘の如しと。斯の如く婦人は常に自己に對して、生死の權を有せる一人の主人を戴いて居た。しかしまさか奴隷の様には取扱れなかつた。其品位は正しく夫と同等で、夫が家族の父又は主人と呼ばるゝ如く、妻も亦家族の母又は主婦と呼ばれて、家の中では、夫が主人

であると同様に、妻も亦主婦であつた。

妻は奴隷の婦人に命令して、種子を粉にひいたり、パンをこしらへたり、料理をしたり、いろんな粗まかな仕事をさせ、自分では、『譽の室』（「アトリオム」といつて家の内部にある廻廊）に腰うち掛けて、織り、紡ぎ、奴隷達に仕事を分ち與へ、子供を監督し、一家を指揮して居る。羅馬の婦人は、希臘の婦人のやうに、夫と遠く離れて監禁されては居なかつた。夫と共に食事もするし、客にも應接するし、街に晝食を認めにも行くし、儀式のある時には公衆の前にも出るし、芝居も觀るし、裁判へさへ出掛けたものだ。併し乍ら羅馬の婦人は一般に無智である。羅馬人は女子を敎育しやうなどゝは一向思はない。婦人の性質の中で一番彼等の尊ぶのは「嚴格」である。妻の死んだ時、其墓に下の如き銘を刻むのでも解る。『彼女は家を守り、羊毛を紡いだ。』

▼子供●●　羅馬の子供は、一個の所有物として父に隷屬して居る。父は子供を街路に棄てる權利がある。將

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來見込があると思ふ奴は、拾ひ取つて育てる。最初は家の中で、育てられる。女子は結婚する迄は家に居つて母の監督の下に糸を紡ぎ、機を織つて居る。男子は父と共に田畑に出で、勞働をし、或は武器を操縦する事を練習する。羅馬人は元來美術的な人間ではないから、子供に、讀かき算盤を敎へる外、後は一向御構ひなしである。音樂をやらせるでもなければ、詩文を習はせるでもない。只もう、質素で、しとやかで、從順であるやうにと仕込むのである。

▼家族の父●●●　吾等が「一家の主人」と呼ぶのを羅馬では。「家族の父」と呼んで居る。「家族の父」は、財産の所有者であると共に、先祖達の御祭りをする牧師であり、又家庭に於ける帝王である。彼は主人として一家を支配して居る。彼は妻を離緣し、子供を棄て、子供を賣り、又は子供に相談せずして結婚せしむる權利を有つて居る。彼には彼自身の所有論は勿論の事、妻の所有物をも、子供の得た所のものも、すべて自分の自由にする事が出來る權利がある。何故なれば、妻も子供も何に限らず、所有者たる事が出來ないからである。特に玆に注意すべきは、彼が妻子に對して生死の全權を握つて居た事である。換言すれば彼は彼等の裁判官であつて、彼等が罪を犯した時、それを罰するのは司法官ではなく、實に彼であつた。

彼の有名な羅馬の政治家カトンが言つた。「夫は其妻の裁判官である。夫は自分の思ふがまゝに振舞ふ事が出來る。妻が過失をしたなら夫は之を懲戒する。酒を飲んだ時には之を所罰する。不貞であつたならば之を殺す。」と。

又彼の愛國者カチリナが元老院に對して謀叛を企てた時、一人の元老院議官は自分の息子が、此徒黨に與した事を發見して、直ちに之を逮捕せしめ、之を裁判して死刑に處した。此二つの例を以て見ても、羅馬の家庭に於ける、專制主義が如何に激しかつたかゞ解る。

孤獨

木

私は歸國したらばまづ第一に彼友を訪ねて、せめてもの昔話に心行くまで慰めてやらうと思つたのであります。誰れでも覺えのあることでしやう。生存競爭の劇甚な取り分け心弱い者には堪へることの出來ない東京のやうな處に住んで居てはたゞ、もう懷しいのは故山の風物です。たゞもう慕はしいのは野山の景色です長い間の苦鬪に疲れた私は、この春の暖かい間を、せめて十日でも二十日でも故郷の山ふところに送つたならば、又奮鬪の勇氣も出やうかと一も二もなく歸國することに定めたのでありました。

行李を納めたのは丁度三月も末つ方、梅はもう盛りを過ぎて櫻にはまだ早いといふ頃です。上野の博覽會の賑ひを後にして東京を出發した自分は、大宮、熊谷と一二時間經つ内には、もう思いが故山の空に飛んで、しまいに其の憐れなる友の上を思ひわづらふのでした

友は飯山の在で生れたもので五六才の時養子に貰はれて始めてこの長野へ來たものであります。兩人は父と父との親しく母と母との睦しきより、いつか親しく行き交ふ仲よしの間柄になつたのですが、その又友の母といふのが非常に慈愛深い女性で、よその子の私までがどの位懷しがつたか知れないのでありました。

處がその慈愛深い、實の母も及ばぬ程その兒を愛した母親が、四五年前にフトした風邪の心地より又起たなくなつて、とう〳〵肺炎とやらで死くなつたのですが、可憐想に、望滿々たる友の生涯もそれからがらりと變つてしまつたのです。

世の中に何が悲しいと云つて、親の愛、兄弟の愛、友の愛に離れた程悲しいことが有りましようか。友の父は其の母が死くなると間もなく一人の藝者を根引して家へ入れたのですが、父はもう一も二もなくその新妻に愛溺して、いつとなくなさぬなかの友の上を忘れるやうになつたのです。あゝ七年の年期明けから始めて家に歸つた友の思ひはどんなでしたらう？

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼れはそれから具さに世の中の辛酸を嘗めたのでした。新しい母、新しい妹、それとの中の親しく行かなかつた時、彼れはひとりでどんなに胸を病めたでしようか。あゝゝゝあゝゝゝとの嘆息は絶えず彼れの口から洩れて絶望の刄は鋭く彼れの胸を貫いたのです。

間もなくあの日露戰爭が始まつたのですが、運命の黒き魔神の腕は容赦なくその憐れなる友をも刺し去つて、歩兵の大行李といふ艱苦堪へがたき辛勞の淵に投げたのです。

長く冷酷と無情とに苦しめられた友は寧ろ此處にぞの活路を見出して勇んで召集の命に應じたのですが、超えて二年、平和の風が再び此の日本を見舞つて、人は皆凱旋の酒に醉い狂つて居る時、友はまたひとり淋しく歸つて來て、着替への着物一枚無い自分の室に戎衣の袖を絞つて泣いて居るのでした。

まあ何といふ悲慘な話でしよう。友はその樣な苦しい中からこの頃やつと、恩賜金の百五十圓を下渡して貰つてそれで兎も角も今の店を出す事にしたのだそう

です。

「お前さん聞きなさんしたかね、上の荒物の爲さんなこんだ石堂町に古道具始なしたと云ふじや無しかね？」

なーにさ、古道具ていばまだ聞いたとて能いだが、ほんとの事云へばお拂いやの問屋だ事え。能くまああんな事が出來たもんだと己らもたまげただよ」

あゝ、いくらか同情のある人でさへこれですもの、一般の世間では、まあどの位に云つて居るのでしよう私はこの輕蔑と嘲笑との中にひとり笑顔を持つて憂れへなげに振舞つてゐる友の心中を思つてはひとり胸の中に泣いたのです。

午後の暖かい日の光りは今裏庭の方から座敷の障子を一杯に照して何一つ飾り氣のない友の室を思ふがままに照らすのです。まだ荒壁を付けたまゝの横木などが現はに見える床の間には、これも貰物でしようか何とやら云ふ落欵の韓信の圖表裝の古い至つて不恰好なのがガラリと下げて有つて、その前には金比良さんの

御厨子の錆び付いたのだの、煙草入れの金具の取れたのだの、小刀の古いのだの、湯わかしの穴の明いたのだのがヅラリと並べて在るのでした。友は珍しい來客を喜んだのでしよう。瞳にも頬にも喜びの色を見せて、男の手の不恰好ながら、然し眞情の籠つた風で茶を入れて呉れたのです。

「まあほんとに能く訪ねて下さいましたね。いつお出ででした。東京は博覧會で嘸賑やかでしような。――はあ、こんな事をして居りますと友達は皆んな立派になつて居るものですから誰れひとり訪ねて來ては呉れません。」

友はいそ〳〵として語るのであります。

目倉縞の長絆天に、二子の洗洒した筒袖の布子、黒く油の染み出した白い靴下、まあ何といふ構はない風采でしよう。

「お父つさんは御一所では無いのですか。」

「イヽエなあに、御存じのあんなものが附いて居りますので時々にしか來ませんです。いつもひとりぼつ

ちですから何處へも出られませんで――然し貧乏人はいつもひとりの方が氣樂で能いですよ。どうせもう世間じやあ私等のやうなものあ、構い付けちやあ呉れませんから。」

と、淋しい笑顔ではありませんか。まさかそんな事もありますまいとは云ひましたけれど、友の辛らさうな顏を見るとその上に慰める言葉もなくて私も默つてうつ向いてしまつたのです。

何といふ淋しさでしよう、生涯を孤獨で過ごさうといふ決心、この決心をなすまでに友は幾度泣いたでしようか。春の夕日を浴びて、庭にチヽと鳴く雀の聲も身に染むやうで兩人は云いやうのない感じに打たれたのであります。

あヽ十年の昔倶に手をとつて學校に通つた頃はどんなに樂しかつたでしよう。ふたりはたゞもう成功の甘い夢に憧れ酔つて、世渡りの苦しさや、義理のつらさなどは苟めにも思ひやつたことがないのでした。目的は豪商、手段は貿易と幼い考へに夢のやうな空想を抱

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いて始めて上京した頃の勇氣はどんなでしたらう。或る冬の如きは態々寒風を忍んで墨田のはづれに「天下の糸平」の石碑を尋ね、停徊しばし去る能はず、我れも又いつかは斯くの如くならんなど、徒らに空想の樂みを畫いてひとり密かに微笑した事もしばしばであつたのです。

私はあまりの心細さにそれとなく友の面を見るのでした。友も同じ思いであつたのでしよう。

「また彼地へお歸りですか。まだしばらくは御滯在ですか………」

「はア折角參つたんですから來月の四五日頃までは居りたいと思つて居ります。」

「來月の四五日ですつて？　それは又あまり急ですなあー」

友はもう別れの悲しさをひとり胸に畫いたのでしよう。眼を炬燵の上へ落して、うつむきながら深い思ひに沈むのでした。

あゝ孤獨！　孤獨は遂に貧しい私共の生涯の運命ではありませんか。世に責められ世に打たれ世に嘲られ世に罵られた時、心弱い私共はこの淋しい孤獨を他にして何處に隱れる處がありましよう。

私は友の上を思ひまた自分の行末を思ふて覺えず胸が一杯になつたのであります。堪へがたい涙は頰を傳つて切りに溢れるのではありませんか。

「オヽ孤獨！　何と云ふ悲しい名であらう。けれども我等はそれより他に行く處がないのである。」

前號目次

▲別居の夫婦（堺利彥）▲婦人諸君に與ふ（大杉榮）▲屠畜場（堺利彥）▲櫻散り墓（竹久夢二）▲乙女の死（荒畑寒村）▲西洋菓子の拵方（山田嘉吉）▲早婚（上司小劍）▲交友の追懷（深尾韶）▲家庭制度の結論（大石祿亭）▲接吻の勝利（安成貞雄）▲下婢組合（記者）▲女學校評論（五）府立各高等女學校（目黑里人）▲三面記事（記者）▲ローマ字欄（深尾韶）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校評論

目黒里人

本誌には弓町の女子美術學校を評論するように豫告したりしが、同校は既に讀賣の風聞記にも上りたれば急に變更する事とせり

（六）御茶の水高等女學校

◉茗溪の情趣　懸崖幾仭、芳草水に映り、老欅欝蒼たる峽間より、塵埃多き都市の大氣を透して、遠く國境の連山を瑠璃色に望む處、仰いで、歷史の色深き聖堂の森を望み、更に流を距てゝ碧翠、白堊互に相映ずるビザンチン式の正教寺塔に對する處、紅竿斜に傾けて、紅絹裏の袖を飜へしながら、かの釣橋を渡り行く御茶の水女學校の生徒は既に畫中のものではないか。

女子高等師範學校附屬高等女學校は眞に女學校の代表的なもの丶一であつて、都下の女學生に對する潜勢力の一部は確かに此學校にある。則ち女學生間の流行若しくは趣好といふような事が或程度まで此學校を中心として居るといふ觀がある。

情趣深き茗溪の自然は、此花やかな女學校によりて彩色せられ、附屬といふ名も御茶の水の女學校といへば何となくゆかしく聞える、

◉生徒の境遇の一致　此學校の生徒位其家庭の事情の一致して居るのは他にあるまい。宛然鑄型にはめたようなものである。高等官の娘、學者教授の娘、銀行會社員の娘と云へばもう殆ど其全體を蔽ふようなものである。

之まで品隲したうちでも實踐女學校なんかは生徒の家庭の事情に種々な差別のあるので有名だ。例へば芝麻布あたりの家族の娘もあれば、富豪官吏の娘も居る、品川あたりの娼家の人も來れば、妾宅から通つて居る人もある、赤坂四谷あたりの貧家の子女もあれば、青山あたりの孤兒院からも來て居るといふ狀態で、此點は非常に趣味がある。けれども御茶の水と來たら單純極まるものだ。

此學校ではかの虎の門、永田町なんかの奢侈に鑑みて生徒同志の贈答や、揃ひの衣服を調へる事は禁じて隨分質素にするようにと當局者も努めては居るようであるけれども、何しろ、東京市中で一番俗氣の多い本郷と神田の境に跨つて居るのだから、どうしたつて思

ふようには行かない

殊に此學校の「專攻科」なんぞと來たら、ハイカラの研究會見たようなもので、金色夜叉の批評をしたり新體詩を作つたりする人が多いのだから、今茲七十八歳いさゝか世に後れた記者なんかは實に煙に卷かれざるを得ないね。他の學校の卒業生でもハイカラで有名な人は皆此「專攻科」に來て、「大學のかた」の噂なんぞばかりして居る。人生の悲哀といへば「本鄕座」で見た愁嘆場ぐらゐなもので、悲しい時には泣く、嬉しい時には笑ふ「パッションの下る瀑布の如き」有樣。で、新しい世紀の人の悶える、複雜な憂愁がかりそめの對話にも[illegible]播して來るといふような賴母しい人は一人も有りやあしない。

此學校の生徒で南郊大森のほとりに住んで居る某といふ人が、自分の宅の座敷から鐵道線路の轢死者を見た時の感想を擧げて見よう。

二十一日、朝見れば汽車道に巡査らしきが三四人何やら橫はるを動かし居たり、急ぎオペラグラスを出し見れば正しく人なり、やがて白木の箱持ち來りて其中におさめつ。折しも來れる八百屋に問へば、年若き土方らしき男なりとか、定めて種々のわけはありぬべけれど氣の毒の事なり。されど時は長閑の春の朝菜の花黃にれんげ紅なる柔き草の上に覺悟の眼とぢて橫はる時、そが唇に上りし微笑は人知れぬ味ありしなるべし。(日記の一節)

ヽヽヽヽオペラグラスが恐れ入るぢやあないか。『氣の毒の事なり』がいかにも空々しくつて聞かれない。マア大かたが此調子だ。此ハイカラ姫御前の眼中には人生社會が、ちようど。中將湯の廣告小說位にしか映じないのだから賢妻良母も茲に至つて持てあますね

◉「角帽」と『ヨボ』 世間の岡燒連がよく赤門と御茶水早稻田と目白臺とを妙に意味ありげに並稱するが

記者が公平に見ると早稻田の生徒は目白臺で大に嫌はれて居るからオカしい。最も早稻田の諸君は中々通人だから女學生に嫌はれたつて「檜物町」てふ事を御存じだから記者が棚おろしをした事が別に名譽毀損にもなるまいと思ふ。處で、御茶の水と赤門之はまた非常なもので、實際世間が嫉むのも無理はない、其交情のおよろしい事、羨やましいものだ。記者なんかも年甲斐もなく時々癪に障る事があるからおかしい。「園遊會」だとか「かるた會」だとか夫はもう實に盛なものさ。

最も之は無理もない事で、お互の境遇が丁度相許すので、實際晴れて夫婦になる人が多いのだから仕方がない。記者は決して當事者の責任を問ふのぢやあない、只お目出度いと太平樂を申上げるばかりさ。

處が夫は記者も大賛成として置いて、怪しかる事はお隣の師範學校の男生徒を『ヨボ』よ、『ヨボ』よと姫御前のあられもない暴言を吐く事だ。記者は茲に至り嚴然たる態度を以て諸才媛に宣告する。諸君にして今日

かぎり其暴言を慎まないに於いては、記者は更に有力なる機關を用ゐて諸君の或二三者を犧牲に供して、社會の旅行券を頂戴するから覺悟し給へ。

●大學生の噂に上る女學生　角帽先生の口から口耳から耳に傳えられて誰知ぬ者もない程に評判となる所謂『美人』が、何時でも此學校に一人や二人はある。其評判の美人といふのは必ず此學校に限られて居からおかしい。一度大學生の噂に上ると、それが本郷の各學校に波及して下宿屋の下女までも知つて來るやうになる。

處が評判のはげしい割にいつでも力ぬけのするよふな美人ばかりが多い。要するに評判娘といふのは其容貌が挑發的であつて、容易に萬人の眼を惹くといふ點に落ちるらしい。記者は都はなれた田圃にさみしい生活を送つて居るからそんな事は知らないが一例を擧げて見ると大學生の噂に上つたのは怎んな人達であるそうだ。

片山柳子、木〇ま〇子、萩野章子、赤峯久子、今村米子、平塚春子、飯盛郁子

●職員と教授　校長は高嶺秀雄君で世間には知られて居ないが温厚の好人物一點張りで別に意見のあるといふ人でもない。萬事を切り廻して行くのが主事の篠田利英君でもう好い年齢だ。女教員では後閑菊野子、武

田錦子なんぞが永く勤續して居る。西洋人に『あぐり』はアグリーかと云はれたといふ井口あぐり子も居けれども生徒の氣受けはあまり好くない。愛憎が強いといふのだそうだけれど、何うも女の教育はやり惡い者らしい。坪井玄道君は女生徒から『護謨人形』とあだ名されて居そうだ。野口保興君此人は隨分古く勤めて居るが卒業生間に甚だ評判がよくない。記者の聞く處によると何でも贈物の厚薄によつて學生の待遇を差別すると云ふ事だが、何にしても女の口はうるさいものだ。

此學校では一人の教師が或クラスを受持つと、其が五年間卒業するまで付いて行く事になつて居るそうだけれども、記者は此制度に大反對を表する。成る程之に伴ふ利益もあるだろうけれども、教育の原則からいふて怎んな馬鹿げた事は小學校に於てさへも避くべきだと思ふ。

それから教育の主義としては學問よりも體育を重んぜよといふ事を口癖のように云ふそうだ。その故か生徒は中々活潑だ。けれども何處までも淺薄で、浮華で輕擧な、沈靜な態度が少しもない。徒らに流行の新裝は追ふても、新しい時代の生々とした生命は少しも見られない重れていふ、人生は決して、「家庭」ではない、「結婚」ではない、中將湯の廣告小說ではない。

●『オテツ』と『御親友』　此學校では同級の生徒同志、互に意氣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

相投じたるものが、相愛し、相慕ふて他見もれたましい程にする、それを「御親友」といふそうだ。夫から上級と下級の生徒とが此關係を結ぶのを「御熱心」といふ。けれども普通「オチツ」と呼ぶそうだ。かくして「オチツ」は互に禁止の飾りにローマ字で自分の名の頭字を現はした品を互に交換する。

あまり好くない事は教へなくても覺えるものだ。けれども考へて見ると恁んな事實が家庭萬能主義、良妻賢母主義の私生兒ではあるまいか。

●秀蘭芳菊　何れ軍人崇拜の日本の教育家としてはありそふな考案だけれどパチン止の胴締を拵へて、其金具の處へ八稜鏡に菊と蘭とを現はしてそれを袴の後紐の上へ締るようにした處などはアンマリ感心した趣向ではない。

秀蘭芳菊で思ひ出したが、大塚楠緒子は此學校の二十六年度の卒業生だそうだ。日本の女流作家のうちでは、最も近代精神に觸れて居る人で、記者の見る處によれば、一葉女史に比べて優に一頭地を抽いて居る。御茶の水のような、官吏や會社員の「奥樣」ばかりを造る學校としては稀しい秀才を出したものだ。

●結　記者は御茶の水の女學校が萬事放任主義をとつて行くにも係らず、生徒が徒らに虚飾に走つて俗惡な流行を追ふ事ばかりつとめる傾向のあるのは學校が全く日本在來の頑迷な女子教育主義以上に一歩も出る事が出來ない證據であるだろうと思ふ。女子に學問はあまり必要はないといふような謬想から學生の智識欲を妄りに消耗せしむるが如きは實に愚の極といふ可きではないか。

學校へは銘山ぐらゐでゴマかして置いて、一寸外出するにも非常に挑發的な風俗をして、寄ると障ると、某は肥つて居て困るだろうの、某の許婚は醫科の生徒であるの、某のハイカラがどうだとか、某の結婚園遊會がどうのと馬鹿げた事ばかり話して日を暮す此學校の生徒なんぞは、白木屋の人形と同じ土偶が只華美々々しく着飾りたるばかりといふべし。

▲次號一回分だけ筆を休め、第九號には跡見女學校を痛罵す可し。

前金切の諸君へ

前號即ち第六號にて前金切となつた諸君は、先日も端書にて申し上げました通りの事情でありますから、何卒至急次の前金を御拂込み下さるやう、御願ひ申し上げます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(Kono ran wa Fukao Shō ga kaku.)

Fushigina Ki-no-ha.

Aru tokoro ni hitori no musume ga atta. Oyatachi wa sono muko ni naru hito o sagashite iru ga, sappari muko ni narite ga nai. Sore mo sono hazu, musume wa moshi jibun ga saki e shinda toki ni wa sono muko mo ikinagara kan-oke ni haitte jibun to issho ni hōmurareru to yū koto o yakusokusuru otoko de nakereba o-muko sama ni shinai to itte iru no da mono.

Tokoro ga sono musume wa taisō bijin de atta no de, aru otoko ga shinde mo kamawanai kara sono muko ni naritai to iidashita. Sorede, tōtō, moshi katakata ga saki e shindara dochira de mo isshoni iki-ume ni sareyō to yū koto o yakusokushite, kekkon o shimashita.

Sono nochi mamonaku kyūbyō de sono onna ga shinda no de, otoko wa tōtō iki-ume ni sareru koto to nari, kan-oke no mae de naite ita. Suruto soko e ippiki no hebi ga haitte kita. Otoko wa suguni sore o kirikoroshita. Shibaraku suru to mata ippiki no hebi ga yatte kite, sono kuchi ni kuwaete ita ao-aoshite iru ki-no-ha o mae no shinda hebi no kirareta tokoro ni otosu to, fushigi ya!, sono kiri-kuchi ga suguni kuttsuite, ima made shindeta hebi wa ato kara kita hebi to isshoni sassato achira e nigete itte shimaimashita.

Otoko wa fushigi ni omoi nagara, hebi no otoshite itta ki-no-ha o hirotte, kokoromi ni ichimai wa onna no kuchi no ue ni, nimai wa sono me no ue ni oku to, fushigi! fushgi!, onna wa suguni ikikaette tasshana hito ni natte shimatta.

Konna shinsetsu mo, onna wa sono uchi ni mō wasurete shimatte, aru toki fune de tabi o shita tochū, kokoro no warui sono fune no senchō to sōdanshite, nete ita otoko o umi no naka e hōrikonda. Kono koto o shitte ita, otoko no tatta hitori no tomodachi wa sugu ni kobune o oroshite, shinde shimatta otoko o tasuke age, azukatte ita rei no ki-no-ha o dashite ikikaeraseta. Soshite, isshōkemmeini kai o koide oka ni tsuita.

Akunin futari o noseta fune wa ōarashi ni atte shizunde shimatta.

改正定價

一部	金八錢
六ヶ月前金	四十二錢
一ヶ年前金	八十錢
(何れも郵稅共)	

廣告料

特別一頁	十圓
普通一頁	七圓

▲本誌は毎月一回（一日）發行とす。

▲代價は小爲替を以てお送り下さい。郵劵代用ならば五厘切手で一割增に願ひます。

▲御注文の時は必ず何巻何號より何號まで何册の前金と明瞭に御記載を願ひます

▲御手紙には必ず住所姓名をハッキリとお書き下さい。又御轉居の際は新舊の宿所を併せて御通知を乞ふ。

▲本誌は前金でなくては一切御註文に應じませぬ。前金の切れた時には帶封に「前金切」と朱印を捺して上げますから御注意下さい。

▲歐米諸國よりの御注文は別に一册に付二錢づゝの郵稅を申受けます。

明治四十年四月廿五日印刷
明治四十年五月一日發行

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行兼編輯人
兼印刷人　大杉榮

東京市京橋區日吉町十番地
印刷所　近藤商店

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行所　家庭雜誌社

大賣捌所　上田屋　東京堂　良明堂　東海堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

☞一度内容を見て眞價を知られよ☜

妻君必讀

婦人世界

令孃必讀

五月一日發行　毎月一回二卷　第六號　一冊拾五錢　郵税一錢五厘　半年分九錢税共一圓一年分七拾五錢

〔口繪〕◎彩色畫三枚◎名家令孃鑑◎跡見女學校の卒業生◎名家若夫人◎各女學校の優等卒業生總代◎東京女學館生徒の演じたる活人畫

◉藤を詠じたる古來の名歌評釋(白水)
◉私の感心せる女學生　呉くみ子
◉婦人の眼につく博覽會の出品(月亭)
◉子供に親の云ひ附けを守らせる法　棚橋絢子
◉小説(苦學生)……西村醉夢

◉弦齋夫人五月の珍料理
△わらびの料理は如何にするか
△ぜんまいの料理は如何にするか
△鰺の西洋料理は如何にするか

◉少女欄　毎號弦齋氏の筆に成る女學校と家庭の大評判

◎跡見女學校御在學中の閑院宮女王殿下の御勉強……跡見李子

評判之大文字
婦人の日常生活法　村井弦齋
△智識は如何に必要なるか
△一身に關する智識は如何に必要なるか
△家に關する智識は如何に必要なるか
△國に關する智識は如何に必要なるか
△世界に關する智識は如何に必要なるか
△諸般の智識は如何に必要なるか
△技藝は如何に必要なるか
△高等教育は如何に必要なるか

◎我が娘を嫁に遣りたる時の實驗談……阿部夫人

◉記者の見たる東京女學生間の新流行
◉米國中流社會の住居と家具
◉小兒の消化不良症(加藤醫學博士)
◉活動的婦人鳩山春子女史の面影……
◉吃音全治實驗談　古巣校生
◉結婚前の理想と結婚後の結婚實際

婦人世界臨時增刊
化粧かゞみ
大好評(四月十日發行)定價一冊金拾五錢郵税一錢五厘
村井弦齋校閲和洋新式化粧法
は悉く網羅せり美貌を望む婦人は讀め

發行所　東京京橋南紺屋町十二番地　實業之日本社（郵便振替貯金口座參貳六番）　賣捌全國書店

●歯科治療 自午前八時 至午後六時●
神田區須田町二十六番地
歯科醫 吉瀬才市郎
勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

◉眼科診察 毎日午前◉
京橋南佐柄木町五
（電話新三四五八） 川上眼科院

此清心丹は全國到る所にあり

ニツケル罐入にてポケット用に適す

旅行又は平常携帶に最便利也

近刊

白柳秀湖著　小川芋錢畫　竹久夢二畫

晩春の離愁

定價未定　洋裝美本

著者卷頭に序して曰く『わかき日の追懷ばかり寂しきはなしとかや、我は燃ゆらん青春の血を傾け盡して、東大野のさすらひに泣きぬ、噫いつの日にか再び泉の如き情熱に驅られて此歡樂に醉ひ、悲哀に泣かん』と、著者の愁ひは世紀の愁ひにして、著者の悲みは時代の悲み也。讀者は一度此書に接して生命其ものに接するが如き思ひあるべし。

發行所　京橋區尾張町七番地　隆文館

英語教授

一、本塾は日用の英語英文學及び政治法律經濟哲學宗敎に關する英書の譯讀を敎授するを以て目的とす
一、本塾は豫科、普通科、高等科、別科を置く
一、晝間は個人敎授とし夜間は組敎授とす
一、本塾は塾主山田嘉吉自ら敎鞭を取り各科を敎授す
一、少數の生徒を丁寧親切に敎へ自由に質問を許す
一、塾主在米二十有餘年間に見聞したる書物外の智識を丁寧に講義す故に生徒は外國の學校に修學すると同じ感を持つを得出來得る限り英語を以て英語の說明をなす故に早く會話に通ず
一、本塾は約千卷の英書參考書あり以て學生に便す
一、生徒の希望によりて獨、佛、西、及び羅甸語を敎授す
一、規則書入用の者は郵券二錢を添へ申込む可し

麹町區三番町八十番地　山田英學塾

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回内國勸業博覽會銅牌及褒賞狀受領

登録商標

壽美禮おしろい

五二會品評會功分銅牌

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE

錫蓋附乳白硝子器入
壽美禮おしろい

●壽美禮おしろい

●ねり製
定價 大罎 二十錢 小罎 十二錢

ヴワイオレット水製
定價 大罎 二十五錢 中罎 十五錢 小罎 十錢

錫栓附乳白硝子壜入

すみれ白粉は　歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成蹟體等を以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顏肌へを清々しく天然の色白きに至るべし菫『おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會、祝席、雜踏の場所に臨て衛生上生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●西洋洗滌劑 壽美禮あらい粉の特性

●弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれは朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

◎常に髮洗ひに用ひ給へば髮のねばりを取り油あか等を生せず又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

◎使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は温湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

綠、藍、紅彩蝶番ひ鑵詰 七錢五厘
大袋入 二錢
袋入 壹錢

登録商標

西洋色白くなるあらひ粉

SUMIRE.
Washing Powder
壽美禮あらい粉

製造本舖
東京東兩國
元町兩國橋際

壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場各劇場運動場に有り

家庭雜誌第五卷第七號　明治三十六年四月五日第三種郵便物認可　明治四十五年一月一日發行